

令和3年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和3年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

学力の三要素のうち「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するために、長文の評論文の内容理解について記述式で解答する読解問題を出題した。

問一・問二・問三

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多角的に試す記述式問題。それぞれの傍線部の意味を正確に理解するには、何よりもまず語彙にかんする一定水準の知識が欠かせない。また、たんに傍線部の前後の二、三行だけを手がかりにするのではなく、より大きな文脈の論理の展開を丁寧にたどりながら、傍線部の意味内容をとらえる思考力と判断力も必要となる。そのうえで、解答に盛り込むべき内容を制限字数内で正確かつ簡潔な文章にまとめる技能、そしてそれをさらに説得力のある文章へと練り上げる表現力も求められる。いずれの設問も八〇字の制限字数内で解答をまとめることを求めており、それによって語彙力や思考力・表現力などを総合的に評価することを狙いとする。

問四

基本的には問一・問二・問三と同じ趣旨の設問だが、本文全体の論旨をふまえて一六〇字の制限字数内で解答をまとめることを求める点で、より高度な読解力を試すことが意図されている。四〇〇〇字程度の長文テキストを素材に、個々の論点を的確に押さえながら全体を貫く論理の筋道を正確に読み取るという、論理的な思考力がここでは何よりも求められる。しかも解答の制限字数もやや長いため、必要な論点をただ列挙するだけでは十分ではなく、それを論理的に構成し論述する文章構成力が必要となる。問一・問二・問三で求められていた以上に高度の「思考力・判断力・表現力」を総合的に判定することがこの設問の狙いであり、評価のポイントもそこにある。

問五

標準的な漢字の書き取りを課すことで、語彙にかんする「知識・技能」を試す問題。ただし、いずれの漢字も文脈を正確に理解する読解力がなければ書けない語彙であり、その意味で間接的に「思考力・判断力・表現力」を試す設問でもある。

二 (古文)

問一

- ①「御前」「のける」の意味を文脈に即して理解できているか、また敬語を適切に訳出できるかを問うた。
- ②「よも〜じ」と「なれば」を適切に訳出できているかを問うた。
- ③えん曲的に示された事柄が意味するところを理解できているか、また敬語を適切に訳せるかを問うた。
- ④重要古語である「かづく」を訳せるか、また全体でどういう行動をとっているかを理解できているかを問うた。

問二 重盛がどのような夢を見てどのような未来を予期したのか、重盛の心情に即して適切にまとめられるかを問うた。

問三 様々な事柄・人物が出現する箇所を題材にして、

- (1) 事実関係を押さえられているかを見た。
- (2) 物語の本筋を理解できているか、またその内容を簡潔にまとめられるかを問うた。

問四 基本的な古典文法の知識を点検した。

問五 基本的な文学史の知識を点検した。

三 (漢文)

問一

- (ア)「可」の基本的な意味を本文の文脈の中で理解できているかを問うた。
- (イ)再読文字「当」の基本的な意味を理解できているかを問うた。

問二 「大」と「小」が意味する内容を問うことで、本文三行目までの文章の意味を理解し、この文章の基本的な主題を把握しているかを問うた。

問三 文章全体の内容を理解し、理解した内容を適切な言葉で説明できるかを問うた。特に絵画表現の話であることをしっかりと把握しているか否かを評価のポイントとした。

問四

- ①～④ 漢文法の基本的な知識を有しているかを問うた。